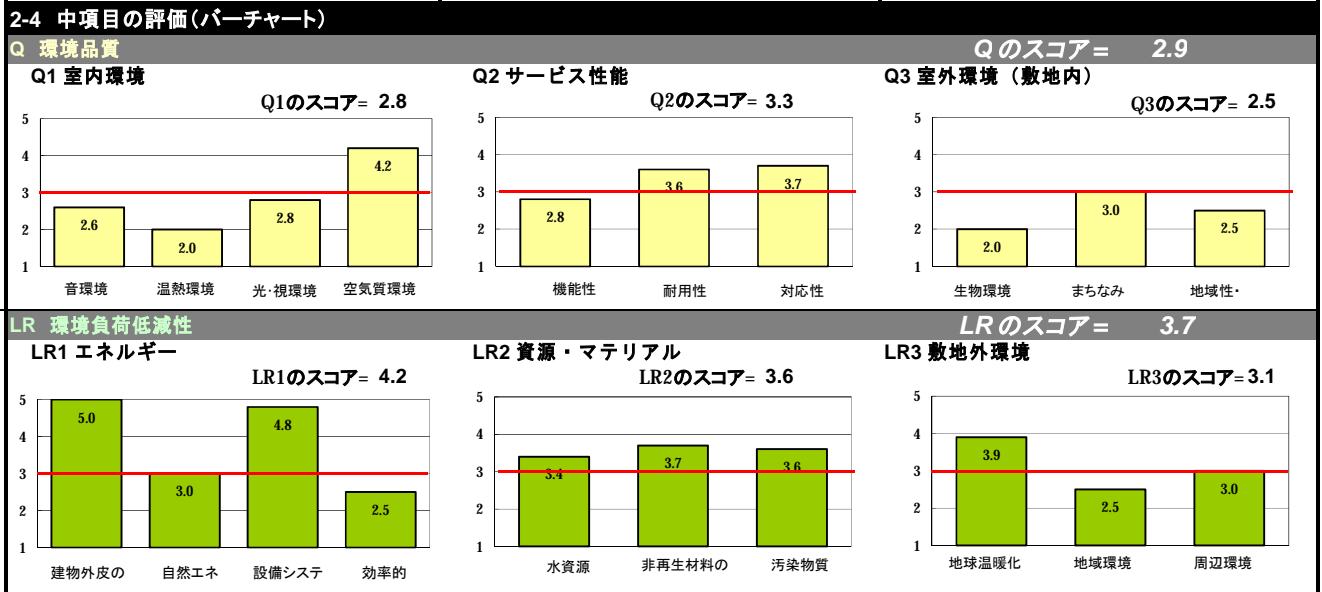
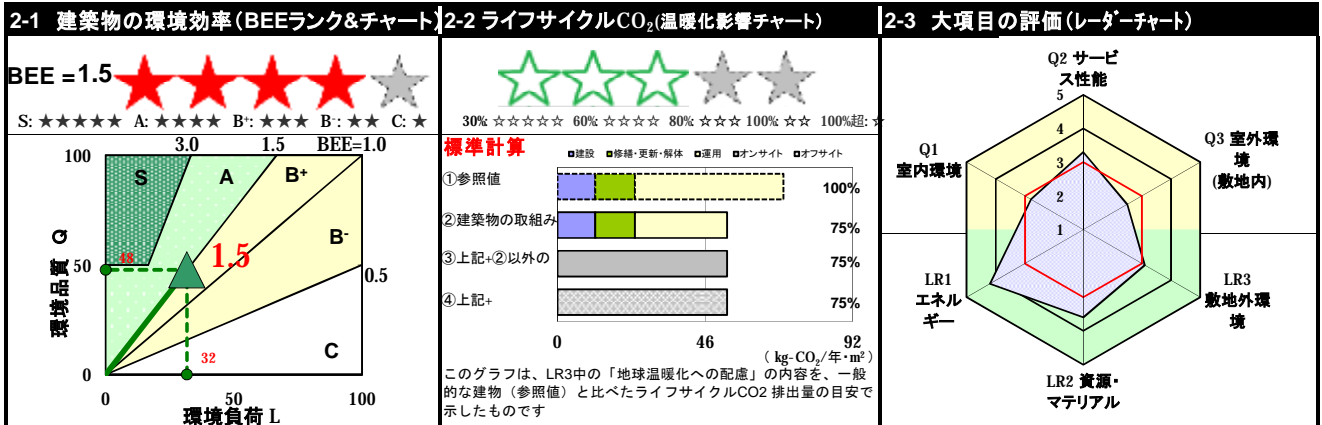


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都大学(熊取)第二研究棟	階数	地上3階、地下1階
建設地	大阪府泉南郡熊取町朝代西2丁目1	構造	RC造
用途地域	防火指定なし、法第22条区域	平均居住人員	130 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年1月 予定	評価の実施日	2021年12月1日
敷地面積	304,315 m ²	作成者	(株)内藤建築事務所、(株)テクノエ
建築面積	1,239 m ²	確認日	2021年12月20日
延床面積	4,374 m ²	確認者	京都大学



3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>建物は高い耐震性(重要度係数1.25)を確保した災害に強い建物としています。また、複層ガラス・高断熱材・LED照明や節水型器具を採用するなど省エネや環境にも配慮しています。更に、建物は周辺環境に配慮した外観としています。</p>	<p>その他</p> <p>強風・竜巻等による設備の破損・飛散するリスク低減し、メンテナンス・更新性に配慮して、多くの設備機器は、地上設置(既存棟と新棟に囲まれた場所)としています。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>外壁には、高断熱材を使用し、熱負荷に配慮した計画としています。また、内装材は全てF★★★★建材を採用します。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>事務室は、電気・通信配線の更新性に配慮して、フリーアクセスフロアとしています。建物内部仕上げは、清掃性の良い建材を採用、各階に清掃流しを設けるなど維持管理にも配慮しています。また、階高を4.0m、積載荷重にゆと</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>景観計画区域(金剛・和泉葛城山系)に配慮した外観としています。また、敷地内に十分な緑地が確保されている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>複層ガラスや外壁には高断熱材を採用するなど、熱負荷の軽減に配慮しています。また、省エネに配慮して、LED照明などの高効率設備を採用しています。更に太陽光発電装置を設置するなど、自然エネルギーの利用を行っています。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>エコマーク建材や節水型衛生器具を採用するなど環境に配慮した計画としています。躯体と仕上げ材は容易に分別が可能であり、また、内装材と設備の錯綜を避けるなど、改修・更新時における建材のリサイクル性の向上にも配慮しています。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>建物利用者のために十分な駐輪場・駐車場を確保する計画としています。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R3-0103

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	京都大学(熊取)第二研究棟					
	建設地	大阪府泉南郡熊取町朝代西2丁目1010-1(他61筆)					
	用途/区分	学校(大学等)					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					A	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					2	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.9	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	2.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	4.8	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		